

33号もあ楽しみください。
真っ直ぐさで、イラストは画家のよ
うに鉛筆がスラスラと走っています。



それぞれの 作画について。

遠藤ミマンさんの《野火》という作品は、けむりがあがっていたけど、なにもわからない線のもののように見える。だけど、はいいろだけありのかたちをしているのに、なんでそう見えるのか不しきだった。

中丸茂平《湿原》は、湿原の木や草がとても細かく描かれている、広々とした湿原の様子がよく伝わってきた。茶色や黄色がベースに描かれているので、夕方や秋の静かな印象だった。



どんなん
展示?

この美術博物館が博物館から美術博物館になったのは、今から10年前だ。今回は、美術博物館10周年を記念する企画展を取材した。さまざまな風景画や静物画があるので、ぜひ見に行ってほしい。

苦小牧の絵や苦小牧近こうの絵がたくさんあった。そのなかで支笏湖にはなんどもいったことがあるので、どこの場所の絵かわかるけど、昔と今でかわっていたので、その違いも見つけられるのでさがしてみてください。

(畠田智樹)



《野火》という作品が二つあった。一つの《野火》は、遠藤ミマンさんので、もう一つは、国松登さんの作品のほうが全体的にくっきりとしていた。

(前原夏帆)

二階堂昊さんが描いた《薔薇》という絵は、すごくああざっぱにかかれていて、よく観察しないとバラとは分からなかった。だからといって、まったくバラに見えないわけではないところが表現力があると思った。

(前原みのり)

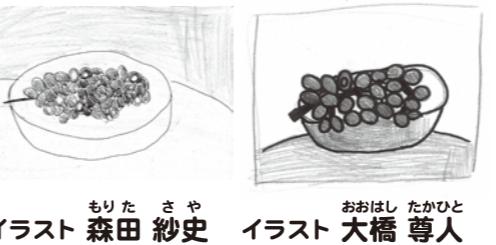
ほくが好きな作品を紹介します。酒井信義さんの『風の生涯』のシリーズです。後ろの空は、えのぐで描いていて、他にもボールペンで描いている作品です。えのぐだけでなく、ペンで書いているのが他とちがっていいなと、思いました。ぜひみなさんも見てください。

(葛西多喜司)

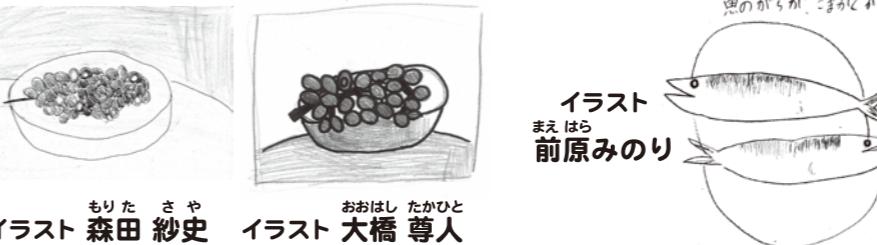
《コンポートと果実》(1993年頃) 笠井 誠一



《ぶどう》(1993年) 笠井 誠一



《にしん》(不祥) 笠井 誠一



木下知子さんの作品《美々川》(1)(2)(3)は、どれもやさしいいろ(ピンクやみどり)などをうすくしてぬっていて、すごくゆったりさせる絵だとおもう。

(畠田智樹)

笠井誠一さんの絵です。色があかるくて、色づかいが好きだったので、描きました。「ようらん」という花と水さしをえらんだ理由はしないけど、楽しそうな絵でした。水さしよりもやかんに見えました。自分も描いてみたいです。

(岡本到)

《洋蘭と水差し》(1990年) 笠井 誠一



4/29(土) - 11/19(日)

中庭展示 Vol.19

大島慶太郎

MONOGRAMS



イラスト 大橋 尊人

イラスト 大橋 尊人</